

自治ひょうこ

1626号

2023. 3. 15

月2回(1日、15日)発行 定価10円

購読料は組合費に含まれる。

自治労兵庫県本部

書記長/尾西亮太郎・編集人/秦 信昭

当面の日程

3月31日 県会・神戸市議会議員選挙告示日

4月9日 県会・神戸市議会議員選挙即日開票



全日本自治団体労働組合 兵庫県本部

〒650-0004 神戸市中央区中山手通3-4-8 大東ビル TEL078-392-0820 FAX 078-392-0920
http://www.jichiro-hyogo.jp/ E-mail:jhyogo@jichiro-hyogo.jp



春闘勝利に向け団結ガンバロウ



県本部は第203回中央委員会を2月10日に神戸市内で開催し2023春闘方針をはじめとする6つの議案を審議した。7人の中央委員から政治闘争や会計年度任用職員の処遇改善、単組強化などの発言があった。

中央委員会では、現業・公企闘争総括を小原王之副委員長が提起し「産別闘争の役割・課題を明確にし、現業・公企統一闘争に結集

し取り組みを前進させよう」と述べた。

確定闘争・一時金闘争中間総括は戎剛副委員長が提起。「最重要課題である『組

県本部中央委員会

組合員一人ひとりの声を要求に

一歩前に出た議論で課題解決に活かす

合員の賃金の維持・改善のため更なる結集を」と訴えた。

23春闘方針では尾西亮太郎書記長が春闘は「1年のたたかひのスタート」と位置づけ①積極的な賃金改善②賃金労働条件について十分な労使交渉・協議③会計年度の処遇改善④中途採用者の賃金改善⑤積極的な人員確保の5つの課題を柱に取り組みを提起した。特に春闘期には組合員一人ひとりの声を集め、現場に則した要求や統一要求を提出し、回答の獲得のため、当局に迫ろうと強調した。

また当面の闘争方針も尾西書記長が提起。新規採用者の取り組み強化では「1人3回」の声かけの推進に取組むことを求め、特

県本部春闘討論集会

数は力、春闘に結集を

人員不足から脱却し働きやすい職場づくり

県本部2023春闘討論集会を2月11日、ひょうご共済会館で開催した。

集会は自治労本部の伊藤功書記長より「職場からの23春闘・政治闘争と組織強化」と題して講演を受けた。

伊藤書記長は「数は力。一人でも多くの組合が春闘に結集することが重要。単組での賃金水準・賃金実態を把握し、生活給としての賃金闘争を推進しなければならぬ」とし、「慢性的な人員不足から脱却し、長



久しぶりに会場は満席に

時間労働是正、年休取得できる職場環境を取り戻し、誰もが生きいきと働き続けられる職場づくりをめざそう」とした。また、政治課題については「改憲・軍拡

その後、梅垣耕平副委員長から自身の経験をもとに自治労共済について説明。「組合の先輩がもっと早く自治労共済を進めて欲しかった。安心・安全のためにも組合員へ自治労共済を推進してほしい」と説明した。

午後からは①定時に帰るための人員確保闘争②賃金

報告・議案に対する発言では、国保労組の麻生中央委員(写真①)から「定年延長の課題で県とは異なる部分で国保労組独自の3点について前進した」と課題前進の報告があった。太子町職の竹中中央委員(写真②)は「昨年11月の町長選挙で、推薦首長が勝利。町長交代により初任給引き上げや7級制導入について、これまでの課題が大きく前進した」と各町職単組にも波及する取り組み報告。宝塚市職の酒井中央委員(写真③)から「労働運動の継承の必要」と4月の選挙では組織内候補の支援のお願いで組織強化の課題が述べられた。佐用ひまわり労組の木南中央委員(写真④)からは「会計年度任用職員に勤勉手当がないため、確定闘争では悔しい思いをした。なぜ正規と同等ではないのか。支給につなげる取組みを進める」と会計年度任用職員制度の課題についての決意。伊丹指労の川口中央委員(写真⑤)からは「会計年度任用職員の雇用止め通告があった。組合員を守るために、これからどうたたかえば良いのか」と今後の取り組み強化について。加西市職の上月中央委員(写真⑥)からは「5月に加西市長・市議選挙が実施される。組織内推薦候補を勝利させるため、各単組への支援要請、公共ユニオンの谷中央委員(写真⑦)からは「公共ユニオンで介護部会を立ち上げた。介護の労働実態があまり知られていない。低賃金・人員不足の問題が山積しているが、介護業界を変えて行く取り組みが必要」と介護現場の厳しい状況が報告された。

中央委員会の最後に山下忠之委員長は「今回のそれぞれの発言は一歩前になる発言だった」と結び、団結ガンバロウで終えた。

闘争での到達目標確認③振替休日の運用は大丈夫かの3つの分科会で議論を行った。(分科会報告は後日掲載)

しこう

1966年「丙午(ひのうえうま)」に生まれた。「丙午」生まれの女性は気性が荒く、厄災をもたらすという迷信で、この年、産み控えが起こり、出生数が前年より46万人減少した。非科学的な迷信を信じたというより、世間体を気にしたり、同調圧力があつたのではないかと先日、2022年の出生数が80万人を切つたというニュースが話題となった。若い世代から仕事や賃金の話聞くにつけ、少子化はいたしかたないと感じてしまう。長く社会に関わってきた者として申し訳なく思う▼「丙午」生まれも今年57歳だ。そう、3年後の2026年には千支が一回りして、また「丙午」が巡ってくる。AIだDXが巡ってくる。AIだDXだという時代に、よもや迷信で産み控えが起こるとは思えないが、社会の同調圧力は当時と大きく変わっていないように感じる。「丙午」迷信が、少子化に拍車をかけませんように。

いまいち座

根性のすえどころ



吉田ノボ

県本部組織内予定候補者

選挙闘争に勝利しよう

前半戦の県会・神戸市議選は4月9日投票



県会・神崎郡
上野 英一



県会・垂水区
黒田かずみ



県会・宝塚市
橋本なるとし



県会・川西川辺郡
北上あきひと



神戸市会・西区
かじ 幸夫



神戸市会・北区
伊藤めぐみ



神戸市会・中央区
よこはた和幸



県当局に対し、衛生医療評議会は2月8日(写真①)に、また、青年部と女性部は合同で2月15日(写真②)に春闘期の交渉を行った。

衛生医療評議会は、昨年12月に提出した要求書の重点項目に絞り交渉を実施。防疫等作業従事手当に

新型コロナウイルス患者受け入れに係る財政支援の要望を県として国に行うよう要請した。

保について、学校進学後地元医療機関に就職しない実情を訴え、異次元の対策を要請。県からは「地方の魅力で人口を増やしていく考

専門部による対県交渉を実施

更なる財政支援と人財確保を要請
定時に帰れる人員配置を求める

青年部
女性部

衛生医療



とる、県は「同じ認識だ」との回答を引き出した。また、参加常任委員からは「労働時間の適正化」について、いまだにポラン

課題解決に向け議論深める
ハラスメント対策の必要性を学ぶ

県本部現業評議会は、2月4日、あすてつお神戸において、現業闘争2023交流集会を開催した。開会にあたり大原猛議長は、「本日

い、松本賀仁事務局長より2022現業・公企統一闘争の総括を提案し、全体で確認した。

吉村局長より講演を受けた



Advertisement for 'マイカー共済' (My Car Mutual Insurance) with text: 手続きが「30日以内」に必要です! 自動車を買替えた方、30日以内に届け出がなく事故を起こされた場合、共済金をお支払いできません。